

平成 28 年度 県立岩井高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 変化の激しい社会をたくましく生きていくための「生きる力」を育み、心身共に健康な地域や社会に貢献できる人間を育成できる学校 (2) キャリア教育の充実を図り、生徒ひとりひとりの興味・関心や適性に応じた進路実現ができる学校 (3) 地域の教育的ニーズに応え、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される魅力ある学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>昨年度、観点別評価の学年進行が完成年度を迎えたが、今後も評価と連動した指導方法の研究を含め教科内での研修を活性化して啓発を進める必要がある。</p> <p>進路指導面では、1 学年からの進路別見学会や参加型のガイダンスによる体験的キャリア教育の充実を図り、キャリアカウンセリング等の個に応じた進路指導の実践をさらに進めた。120名を超える就職希望者に対し、96.9%の内定率であった。進学希望者も例年通りの結果であったが、平常課外や夏季・冬季課外休業中の課外を充実させ、入試に対応できる学力を養成していくことが課題である。</p> <p>学校説明会を始め、学校行事への生徒たちの積極的参加によって生徒の自主性が発揮され、達成感や学校への帰属意識が育まれた。また、部活動においては、前年度に引き続き、写真部の全国大会への出場など文化部の活動、柔道部の関東大会出場、ハンドボール部の県大会出場と成果が見られているが、加入率の増加には課題が残る。</p> <p>地域との連携においては、相互の授業参観等で地域の中学校との連携を図り、文化部を中心とした地域行事への参加によって地域社会との交流を進め、一定の成果があったが、本校の良さを理解していただく情報の発信を工夫し、志願者の増加につなげることが課題である。</p>	<p>ア 学力を向上させる諸指導の実践</p>	<p>① 主体的学習態度を養い、思考力、判断力、表現力を高める授業の改善を図る。</p> <p>② 小テスト等の導入により学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。</p> <p>③ グループ学習の活用などにより言語活動の充実を図る。</p> <p>④ 各種検定試験の合格者やセンター試験利用による合格者を増加させる。</p> <p>⑤ 学習課題を工夫する等の手法をとることによって、自宅学習時間を確保・増加させる。</p> <p>⑥ 観点別学習状況の評価の充実を図る。</p>	<p style="text-align: center;">B</p>
<p>イ 個に応じた進路指導の実践によるキャリア教育の充実</p>	<p>⑦ 職業観・勤労観を形成し、自己目標を明確化をさせるため個別面談の充実を図る。</p> <p>⑧ キャリアカウンセリングや地域と連携したインターンシップ等の体験的活動により生徒の進路意識を高める。</p> <p>⑨ 基礎力の定着や学習能力の向上を進める課外体制の充実を図る。</p> <p>⑩ 資格取得など特色を生かす教育課程の充実を図る。</p> <p>⑪ 生徒・保護者への情報提供だけでなく、参加型の行事の充実を図り、進路意識を高める。</p>	<p style="text-align: center;">B</p>	
<p>ウ 人間性・社会性を養う教育活動の展開</p>	<p>⑫ 学校生活を通し自らを律するとともに、他者との協調性を培う。</p> <p>⑬ 組織に所属する自己肯定感を高め、校歌を歌うことなどにより母校愛を育成する。</p> <p>⑭ 各種講演会や面談を通し生徒の自己理解・自己指導能力を育成し、事故等の未然防止に努める。</p> <p>⑮ 地域や社会の行事に積極的に参加し、地域社会に貢献する意識を育てる。</p>	<p style="text-align: center;">B</p>	
<p>エ 特別活動・広報活動の活性化</p>	<p>⑯ 生徒が主体的・積極的に参加できる学校行事を企画・実践する。</p> <p>⑰ 各部活動の加入率を高める。</p> <p>⑱ ホームページや学校通信等により、本校の教育活動を学校内外に積極的に発信する。</p> <p>⑲ 地域の小・中学校と連携協力した取組を通して信頼関係を再構築し、志願者増につなげる。</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教	国語	基礎学力の確実な定着および向上を図る	「分かる授業」を展開するため、系統的な指導内容になるよう工夫する。ア①	B	・基礎学力の定着を目指した授業方法や課題のあり方の工夫。
			小テスト等を有効に活用し、定着度を把握しきめ細かな指導の推進を図る。ア②	B	
		生徒の実態に即した授業展開を行う	内容を精選した題材を用い、生徒に興味関心を持たせる。ア①	A	
			基礎力の定着を図るとともに、学力に応じた目標を設定する。ア①	A	
		生徒の進路希望に応じた国語力の定着を図る	課外の実施や課題を与えることにより、上級学校への進学に対応できる学力の定着を図る。イ⑧	B	
	地歴・公民	生徒の実態に即した授業展開を行う	単元毎に目標を明確に提示する。ア①	A	・18歳選挙権に対応した主権者教育の充実。
			生徒の実態に即し、教科内容を精選した資料や例（新聞・雑誌・インターネット・DVDなど）を提示する。ア①	A	
			選挙権が18歳からになったことを踏まえ、主権者教育を重視する。ウ⑬	B	
		生徒が意欲的に参加できる授業を行う	グループ学習やレポートの発表など生徒参加型の授業形態を取り入れる。ア①③	B	
		基礎力の向上を図る	状況に応じた発問を行う。ア①	A	
			ノート・問題集など整然とまとめさせる。ア①	A	
			フィードバックしながら関連事項についての理解を深める。ア①	B	
数	基礎学力の向上を図る	「わかる授業」を展開するため、板書、発問の仕方、課題プリントなどを工夫する。ア①③	B	・基礎・基本、反復学習を徹底。 ・大学進学や公務員希望者の実力の向上。 ・授業方法、展開を工夫し、生徒が取り組みやすい雰囲気作り。	
		放課後や長期休暇中の補習を活用し、理解度の低い生徒に対応する。ア⑤	A		
	問題を解く力を養う	生徒の学力に応じた適切な問題を選択し、課外なども利用し演習させる。ア①④	B		
		問題演習時間を十分に確保し、やる気を喚起する指導を行う。ア①⑤	A		
授業時の理解度を把握する	机間指導や問題集・ノートなどの点検により理解度の把握に努める。ア①	B			
		小テストや課題等を利用して生徒の学習状況を把握する。ア②	B		
理科	理科への興味・関心の高揚を図り、基本的学習内容を定着させる。	「わかる授業」を展開するために、板書、補助教材教具を工夫する。ア①	A	・指導と評価の一体化による授業改善の充実。	
		授業中に「小テスト」等を実施し、繰り返し学習することで知識の定着を図る。ア②	B		
		ビデオやDVD、ITを活用して理科への興味・関心を高める。ア①	B		
	知的好奇心や探求心を高め、思考力・判断力・表現力等を育成する指導内容の改善の充実を図る。	対話を重視した授業の実施を行い、言語活動の充実を図る。ア③	B		
		観察・実験を計画的に実施し、科学的な探究心を身につけさせる。ア③	B		
	観点別評価の更なる推進。	教科内の評価方法の共通理解を図り、生徒の実態に応じた適切な評価を行う。ア①⑥	A		
	指導と評価の一体化による授業改善や生徒の意欲向上を図る。ア①⑥	B			
保健体育	単元計画目標を明確に提示し、生徒の実態に応じた授業を展開する	単元ごとの具体的な目標を提示し授業を展開する。ア①③	A	・生徒の体力や運動能力には個人差があるが、集団の中で個人の責任を果たし、仲間と連携することによって運動の楽しさを味わうことができる為の工夫。 ・生涯を通じて自らの健康を管理することができる能力の育成。	
		視聴覚教材を有効活用する。ア①	B		
		運動能力の把握と個に応じた指導を充実させる。ア①⑥	B		
	時間や約束事の厳守、活動時間の確保と授業内容の充実を図る	授業開始時間を守らせる。ウ⑫	A		
		挨拶の励行、運動に適した服装や態度を身につけさせる。ウ⑫	A		
運動を中心とした健康的な生活習慣を確立させる	種目ごとのルールを理解させる。ウ⑫	A			
	授業後のうがい、手洗い等健康面や衛生面について指導する。ウ⑫	A			
	運動と休養をうまく組み合わせ、健康を保持増進する能力を高めさせる。ウ⑫	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
芸術	基本的な技能を習得させる	基本練習を充実させ、作品に取り入れられるようにする。ア①	B	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な表現技法を習得及び個々に応じた指導とレベルに添った指導。 表現する楽しさ、美意識の向上創造性豊かな表現技法の育成。 	
		机間指導を行い、生徒の理解度を把握し、適切な助言指導を行う。ア①	A		
	のびのびとした表現活動ができるようにする	生徒の実態に即した教材の精選と教材研究に努め、授業の展開方法を工夫する。ア①	A		
		実技研修に努め、生徒の実態に即した支援を行えるようにする。ア①	A		
教室環境、用具の整備、管理を充実させる	教室環境を整え、活動意欲を喚起する。ア①②	A	B		
外国語	基礎学力の向上を図る	コミュニケーション英語Ⅰにおいては少人数制授業を行い、生徒一人ひとりの理解度に応じて細部まで指導が行き渡る授業を実践する。ア①	B	<ul style="list-style-type: none"> 英語への学習意欲の向上 英語への苦手意識克服につながる指導方法の工夫や改善。 進学希望生徒に対しての指導方法の工夫。 	
		パフォーマンステスト等の活用・課外の充実等により、英語の基礎力の定着を図る。ア②、イ⑨	B		
		同じ科目や学年担当教員との連携が取れるように定期的に話し合いの場を設け、授業内容や進度について意見交換をする。ア①	A		
	家庭学習の習慣を身につけさせる	定期的に課題を提示し、回収点検をする。また、生徒全員が期限を守って提出するように指導徹底する。ア⑤	A		B
		特進・進学クラスにおいては週末課題を課し、大学進学のための基礎作りを行う。ア⑤	B		
	授業を通して英語や日本語でコミュニケーションをとる喜びを実感させ、コミュニケーションの素地を作る	ALTとのティームティーチング等を通して、生徒が英語圏の文化に興味関心を持つような授業を展開できるように工夫する。また、表現活動を充実させて、自分たちの英語が通じることを実感させる。ア①③	A		B
		グループ学習やペア学習を導入することによって、「協同的な学び」の喜びを実感させる。ア①③	B		
		パワーポイントやDVDなど視聴覚教材を使い、生徒の興味関心を高める工夫をする。ア①	B		
	生活に必要な基礎的・基本的な知識技術を習得させる	生活の基礎的・基本的知識や技術を習得させるため新聞記事などの新しいトピックを利用する。ア①	B		B
		調理検定4・3級の内容を実技指導に盛り込むことで、検定の受検意欲を高める。イ⑩	B		
DVDや掲示資料を工夫し、興味関心を深めると共に理解しやすい指導に努める。ア①		B			
実験実習を中心としたわかりやすい授業を展開する	実験実習の指導に実技テストを導入し、実技の習得向上を目指す。ア②	B	B		
	グループ学習の指導を工夫し、調理実習などの実践的活動を意欲的に行えるようにする。ア③	B			
	生徒が興味をもって取り組めるワークシートを検討し、工夫改善をする。ア①	A			
家庭生活の充実向上を図るための指導を工夫する	ホームプロジェクトを夏休みの課題とし、家庭生活の充実向上に努める。ア⑤ウ⑮	B	B		
	研修会や講習会に参加し、学んだことを生徒への指導に生かす。ア①エ⑯	B			
簿記の基本的な知識と技術を習得させる	各帳簿の記入の必要性を理解させ、帳票の記録・計算・集計を反復練習させる。ア①②④イ⑨⑩	B	B		
	電卓・パソコンの操作方法と基本技能を習得させる。ア②④イ⑨	A			
ビジネス活動で必要とされる能力と態度を身につけさせる	ビジネスの諸活動に広く関心を持たせ、その意義や役割の理解を深め、主体的に学習に取り組めるよう望ましい心構えや態度を身につけさせる。ウ⑫	B	B		
情報	ソフトの基本操作を身につけさせる	代表的な文書作成ソフトの基本操作を一通りできるようにする。ア④⑥		B	<ul style="list-style-type: none"> 情報活用能力向上のために、インターネットを積極的に活用する授業の展開。 情報モラルと共に道徳を含めた授業展開の工夫。
	情報を活用するための工夫をする	表計算ソフトを利用して、書類を作成できるようにする。ア④⑥	B		
		情報機器の種類と特徴を実習を通して指導する。ア①⑥	A		
	情報社会について理解を深め、情報モラルを身につける	生徒自身が方法を模索したり、グループ学習を通して協力し合う体制を作る。ア③⑥	B		
	インターネットの活用方法や情報を共有する決まりを指導する。ア①⑤⑥	A	A		
	ネットワーク社会のルールとマナー、情報モラル等を具体例を用いて指導する。ア①⑤⑥	A	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教務	観点別学習状況の評価の充実を図る	各教科内での情報共有及び授業研究を推進することで、評価と連動した指導方法の研究への取り組みを支援する。ア⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科内での情報共有及び授業研究を推進するために、相互授業参観等の取り組みの支援。 学校設定科目の実施計画作成。 新成績管理システムの運用及び活用を推進。 個人情報保護を念頭に入れた情報機器の使用について、職員の危機管理意識の啓発。 情報管理部職員のセキュリティ対策について啓発の機会充実。
	教育課程の適切な実施と改善を図る	29年度入学生より予定している学校設定科目を取り入れた教育課程編成を行う。エ⑱ 教育課程の適切な実施に向けて、年間行事、時間割、日課、単位時間等の弾力的な運用を図る。エ⑮	B A	
	広報活動の充実を図る	定期的にホームページの更新する。エ⑱	A	
		定期的に学校新聞「双峰」を発行する。エ⑱	A	
		学校説明会等に積極的に在校生の参加を促進する。エ⑯⑱	A	
	成績管理等システム化の推進	職員が円滑に成績処理等が行えるよう校内の情報機器を管理する。 新しい成績管理システムの構築を推進する。	A B	
情報セキュリティ対策の推進	個人情報の保護を念頭に入れた情報機器の使用について、職員の危機管理意識の高揚を図る。 情報管理部職員のセキュリティ対策について技術を高めるための研修を推進する。	B C		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	朝の登校指導を含め、生徒に積極的に声をかけていく場面を増やす。ウ⑫ 校外外での生徒の服装・態度について、社会通念上妥当なレベルを維持できるよう指導する。ウ⑫⑬	A B	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導を含め、生徒に積極的に声をかけ服装・態度について、社会通念上妥当なレベルを維持できるよう継続指導の徹底。 丁寧な言葉を指導し、場面に応じた言葉遣いができるよう指導継続。 交通安全意識を高めるための自転車点検の実施とバイク通学者に対する実技指導の充実。 問題行動（いじめ含む）未然防止として行っている交通安全講話、薬物乱用防止教室、スマホ・ケータイ安全利用教室の継続実施。 SCによるカウンセリングの継続実施。
	場面に応じた対応ができる生徒の育成	チャイム着席の徹底。ウ⑫	B	
		ていねいな言葉遣いができるよう指導する。ウ⑫	B	
		集会等の全体行動を通して自主性を育てる。ウ⑫	A	
	交通安全指導の充実	自転車通学者の安全意識を高める。ウ⑭	A	
		バイク通学者に対して実技指導を実施する。ウ⑭	A	
	問題行動の予防	各種巡回指導を実施する。ウ⑭	B	
		交通安全講話、薬物乱用防止講話、ケータイ・ネット講話等の各種講話を実施する。ウ⑭	A	
	いじめの未然防止、早期発見に努める	自主的行動を意識させ、生徒自身が律する能力を高める。ウ⑫ 「いじめはすべての学校に起こりうる」という認識で、日々の教育活動の中で注視していく。エ⑱	B A	
いじめ発生時に早期解消に努める	当事者およびその保護者に適切に対応し、断固としていじめをやめさせる。ウ⑭	B		
いじめの件で関係機関との連携を密にする	保護者との連絡を密にするとともに、必要に応じて警察等にも相談する。ウ⑭	B		
いじめに関する教員研修を行う	研修を実施し、対応方法の共通理解を図る。ウ⑭	B		
教育相談の充実	スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリングと保護者に対する助言・指導の充実を図る。ウ⑭	A		
進路指導	進路意識及び学力の向上	進路希望調査、進路適性検査を実施し、自己理解と進路意識の向上を図る。イ⑦	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲を喚起し家庭学習時間の確保や授業・課外指導の充実を図り、基礎学力の定着。 学習指導や諸活動のあらゆる場面でコミュニケーション能力を高める工夫。 学年間の情報共有を促進し、効果的なキャリア教育体制の確立。
		効果的な模擬試験の実施・課外指導の充実により、学力の向上に努めるように動機付けをする。イ⑨	B	
		進学希望者はセンター試験を目標とし、受験勉強に取り組ませる。ア④	B	
	個々の進路希望に応じた指導の充実	生徒の適性や進路希望に基づいた計画的、組織的な進路ガイダンスを実施する。イ⑦	A	
		インターンシップ等の地域と連携した活動により、主体的な職業選択ができるよう支援する。イ⑦⑧	A	
		入社試験・入学試験の際に求められる、コミュニケーション能力や人間性・社会性を養うため、模擬面接や個別指導を行う。イ⑦ ウ⑫	A	
	より良い進路選択のための、教職員・生徒及び保護者との連携の強化	就職内定率100%および志望校への進学を達成させ、外部へ情報を発信する。エ⑱⑲	B	
P T A総会、面談や進路説明会等の機会を通して進路情報を発信し保護者への啓発を図り、進路実現に向けての理解と協力が得られる態勢を整える。イ⑧ エ⑱ 教員対象の説明会や研修会への参加を促し、進路情報を共有すると共に教員のモチベーションを高めて生徒・保護者に還元する。イ⑪		B B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
保健 厚生	健康に関する自己管理意識の向上	各種検診等を通して、自らの健康の維持増進に関する自己管理意識を高める。ウ⑪	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の定数減にともない清掃監督の割り振りの工夫検討。 ・各種行事についても反省課題を念頭に実施・運営方法の見直し。
	校内の環境整備と清掃活動の充実	定期的に修繕箇所の点検を実施する。ウ⑫	A	
		清掃用具の在庫等の確認と各清掃区域の用具を整備する。ウ⑫	A	
		大掃除やクリーンプロジェクトの機会を利用し、清掃活動の向上を図る。ウ⑫	A	
	防火・防災訓練	より具体的なマニュアルを作成し、非常時に役立つ訓練を行う。エ⑮	A	
保健・厚生委員会の活発化	学校行事での保健活動、各種統計処理、保健意識の啓発、各種健康学習の推進（保健）エ⑮	A		
		環境整備活動への協力、ECO活動推進等（厚生）。エ⑮	A	
特別 活動	生徒一人ひとりが生き生きとした学校となるための学校行事の創造	生徒が積極的に参加できる学校行事を企画、運営をする。エ⑯	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の早期立案。 ・情報の共有化。
	生徒会活動の活発化	学校行事を通して、成就感や達成感を体験させ、クラスの連帯意識を支援する。ウ⑬	A	
		本部役員に「生徒の自治」という事を意識させ、その頂点にいる自覚と責任を持たせることにより、主体的に活動できるようにする。エ⑯	B	
	部活動の活性化	「各クラスでの話し合い→評議委員会→生徒会行事」という形を確立する。ウ⑫	A	
生徒の自主的・自発的な活動を支援する。エ⑯		A		
部員に対し、技術・生活・学習面での指導を徹底し、生徒との信頼関係を深める。エ⑰		A		
		部活動紹介、体験入部の充実を図り、部活動の加入率を40%以上にする。エ⑰	A	
図 書	図書館利用の推進	生徒や職員から購入希望の本を調査し、良書を選定する。エ⑯	A	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した視聴覚機材の更新。 ・図書委員の育成方法の検討。
		図書委員会の活動と新着本の情報を月1回以上、ホームページで更新する。エ⑱	A	
		季節に合わせて館内を飾ったり特集を組むなどして、明るく居心地の良い図書館をめざす。エ⑯	A	
	図書部主催の文化的行事の充実	生徒や職員が楽しめるように、芸術鑑賞会の演目や文学散歩の行き先などを吟味する。エ⑯	A	
		図書委員が広報紙『ポプラ』を行事毎に発行できるように、係職員が指導する。エ⑱	A	
		図書委員会の活動を活発化させ、責任感があり自主的に行動できる生徒を育てる。エ⑯	B	
視聴覚機器・資料の充実と有効利用	HRや授業で使えるDVDを選定し、有効活用を進める。ア①	A		
	視聴覚機器の保守と整備を充実させる。ア①	B		
渉 外	P T Aの活性化	P T A総会やP T A関係行事の出席率の向上に努める。また、共通理解を深め、本部役員を中心に会員全体が協力し、充実したP T A活動の実施に努める。エ⑱	B	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A総会の出席率up対策の検討。
	広報活動の充実	P T A会報を発行し、学校概況や全国・関東高P連などの活動状況を発信する。エ⑱	A	
	P T Aと同窓会の連携	創立90周年記念式典に向けて、準備委員会を発足し着手する。エ⑯	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
第1学年	良好な学習態度を確立させ、学力の向上を図る	チャイム着席と授業準備を徹底し授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣確立のための指導方法の工夫。 ・ 他者を尊重する思いやりの心の育成指導の徹底。 ・ 学校行事に積極的な参加を啓発。
		進学希望者に対して適切な情報の提供に努め、よりよい学習法の確立を援助する。イ⑧	B	
		基礎学力向上のための支援を行う。ア②	A	
	教室内外の環境整備に努める	清掃の徹底を図る。ウ⑩	B	
		教室内の生徒私物の管理を徹底させる。ウ⑩	B	
		公共の場での振り舞いや公共物を大切にす心の育成に努める。ウ⑩	B	
	基本的生活習慣の確立を図る	服装・頭髪に関する全体および個別指導を徹底し、自らを律する力を育てる。ウ⑩	B	
		挨拶の励行に努める。ウ⑩	B	
		時間を守る態度を育てる。ウ⑩	B	
		常に制服を正規着用できるよう声かけしていく。ウ⑩	B	
	人間性・社会性を養う教育活動の充実を図る	学校行事や部活動に積極的に参加し、自らを律し他者と協調して共に成長する連帯感を養う。ウ⑩	B	
		言葉遣い、問いかげに対する誠実な返答等の礼儀指導に努める。ウ⑩	B	
他者への思いやりの心を育てる。ウ⑩		C		
		生徒各自が役割を意識し、その責任を果たせるよう働きかける。ウ⑩	B	
第2学年	良好な学習態度を確立させ、学力の向上を図る	チャイム着席を徹底させ、授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活態度を徹底。 ・ 生徒の進路意識向上。 ・ TPOに応じた行動の意識付け。
		進学希望者に対して適切な情報の提供に努め、よりよい学習法の確立を援助する。イ⑧	B	
		基礎学力向上のための支援を行う。ア②	B	
	教室内外の環境整備に努める	教室内の私物の管理を意識させるとともに、清掃の徹底を図る。ウ⑫	B	
		公共の場や公共物を大切にす心の育成に努める。ウ⑫	B	
	基本的生活習慣の確立を図る	挨拶の励行及び時間を守る態度を育てる。ウ⑫	B	
		制服を正規着用できるよう、自らを律する力を育てる。ウ⑫	B	
	人間性・社会性を養う教育活動の充実を図る	素直な心の育成、及び場面に応じた適切な行動を判断・実践していけるよう援助する。ウ⑫	B	
		学校行事や部活動に積極的に参加し、自らを律し他者と協調して共に成長する連帯感を養う。ウ⑫	B	
		言葉遣い、問いかげに対する誠実な返答等の礼儀指導に努める。ウ⑫	B	
		修学旅行またその事前学習を通じて、集団の中での役割を意識し活動していく力を養うとともに、平和の尊さを学ばせる。エ⑩	A	
			進路ガイダンスやインターンシップにより、進路意識の高揚を図る。イ⑧	
第3学年	基本的生活習慣の確立を図る	生徒自身の自覚を促しながら、服装・頭髪指導を行い進路実現の手だてとし、自律心を育てる。ウ⑫	B	
		時間に対する意識を高め、欠席・遅刻を減らす。また、家庭との連携協力体制を作る。ウ⑬	B	
		挨拶や言葉遣い等の礼儀指導に努める。ウ⑫	B	
	良好な学習態度を確立させ、学力の向上を図る	始業前の着席と授業準備を徹底させ、授業に積極的に参加する態度を育成する。ア①	B	
		適切な課題を与えることにより、家庭学習の習慣を身につけさせる。ア⑤	B	
		学力定着のため、平常課外を定期的実施する。ア②⑤イ⑨	A	
	個に応じた進路希望の実現を図る	総合の時間を計画的に実施し効果的な情報提供と進路意識の高揚を図る。イ⑦ エ⑩	A	
		就職内定率100%を目指す。また、大学進学希望者についてはセンター試験を全員に受験させる。ア④イ⑦⑧⑨	B	
		生徒との面談を充実させ、適切な指導をする。イ⑦⑧⑩	A	

※評価基準

上記具体的方策についてA, B, C, Dの4段階評価を行う。

- A 達成されている B ほぼ達成されている C あまり達成されていない D 達成されていない